学校配置の適正化

本市の学校規模における適正配置と今後の学校教育のあり方は

霞　恵介

問 学校配置の適正化検討委員会で出された主な意見は。

答 **教育長**／主な意見として、「児童生徒数の現状や将来推計を見ると、学校配置の適正化は、早急に取り組むべきである」、「学校配置の適正化はハード面が重視されがちであるが、教育環境や教育の質の充実など、ソフト面につなげる施策にしなければならない」、「静浦小中一貫学校が、さまざまな成果を出しているため、小中一貫教育に向けた取り組みを進めるべきである」等の意見があった。

問 静浦小中一貫学校の成果を踏まえた本市の学校教育のあり方は。

答 **教育長**／静浦小中一貫学校において、中一ギャップの解消や、学力の向上を初め、日常的な異年齢交流による児童生徒の社会性の向上や児童生徒数がふえるメリットを生かした学校行事の実施によるコミュニケーション能力の向上といった成果が見られている。小中一貫教育は、教育的効果が高いと考え、市内の他の学校においても、その成果を広めようと、現在、研究に励んでいるところである。今後の本市の全ての小中学校の教育のあり方として、段階的ではあるが、小中一貫教育の導入を積極的に推進するよう努めていく。

湧水の活用

湧水を活用した交流人口増加策は

梶　泰久

問 交流人口の増加に向けて、貴重な地域資源である湧水を活用する考えは。

答 **企画部長**／市内各地に点在する湧水の活用について、民有地にある湧水を、市が観光資源としての利用に向けて、積極的に整備やPRしていくことは困難であるが、三月二十五日にオープニングセレモニーを行う泉水源地の送水管理センターでは、送水管理機能だけでなく、沼津の水道水や美しい周辺環境のすばらしさを多くの人に伝えるべく、展望回廊でのパネル展示や展望コーナーなどを設けている。また、セレモニー当日は、沼津の水道水のおいしさを実感してもらうため、利き水体験なども予定している。清らかな湧水が数多く点在し、市域全体として、渇水期にも水の心配は全く要らないといった恵まれた自然環境、海辺や川辺などの親水空間の活用、上質な飲料水など、豊かな水を切り口として、沼津の都市イメージを発信していきたいと考えている。

▲浮島地区の湧水

フードバンクふじのくに

フードバンクふじのくにに対する支援策は

渡部　一二実

問 フードバンクふじのくには、個人または企業、団体から、余った食料、使わない食料を提供してもらい、行政、社会福祉協議会、生活困窮者支援団体などを通じ、生活に困窮し、支援を望む人や福祉施設へ食品を提供するフードバンク活動に取り組んでいるが、フードバンクふじのくにに、本市の保存期限が近づいた災害備蓄食料の一部を提供する考えは。

答 **危機管理監**／本市では、現在、二十五年保存が可能な非常食を、静岡県第四次地震被害想定に基づき避難所避難者用として、七日分の備蓄を進めている。保存期限の近づいた非常食については、各自主防災会の希望により、総合防災訓練や地域の防災訓練実施時などに、炊き出し訓練用として提供しているが、近年、その希望がふえてきたため、平成二十六年からは、訓練計画量を提出してもらい、調整する中で、各自主防災会に配付している。今後三年間では、平成二十八年に一万食分、平成二十九年に九千六百食分、平成三十年に一万食分が期限を迎えるが、訓練用として各自主防災会に配付する状況を踏まえ、調整の上、全体として数に余裕がある場合には、フードバンクに提供していきたいと考えている。

高尾山古墳の保存

高尾山古墳の保存を

梅沢　弘

問 平成二十七年六月定例会の最終日において、沼津南一色線道路改良事業費を含んだ補正予算議案が可決されたが、その数時間後に、市長から、高尾山古墳保存と都市計画道路（沼津南一色線）整備の両立について、外部の有識者による協議会を設置し、検討し直すとの発表があった。このことに対し、検討し直すと判断した時点で、議案は取り下げるべきであったと考えるが、取り下げをしなかった理由は。

答 **建設部長**／沼津南一色線は極めて重要な道路であり、できるだけ早く整備を進めるために議決をお願いしたものであるが、予算化した上でその執行に当たってさまざま調整が必要になるということは、一般的にもあることだと考えている。特に今回の場合は、六月定例会の一般会計予算決算委員会の委員長報告においても、高尾山古墳は多くの市民等が思いを寄せる本市の大切な財産であることを認識し、どのような保存活用方法が最良であるか今後も関係機関との協議を十分に行うとともに、市民への周知にも、より一層意を注いでほしいとの報告があり、その意見を踏まえた上で進めてきたものである。